

第4回円空大賞円空賞



Axel CASSEL (アクセル・カセル)

プロフィール

1955年：ドイツに生まれる

1973年：パリ・ソルボンヌ大学で法学を学ぶも、モンパルナスの公立夜学でデッサン・版画を学ぶ

1980年：パリ国立高等美術学校卒業

1983年：ハーブ博物館で個展（パリ）

1987年：葉やいろんな形の野菜を元にした実物大の木の彫刻制作

1989年：「作業台の彫刻」シリーズ制作、古風な形への復帰、シカゴ国際アート展覧会出品

1991年：葉・種子・樹皮・熱帯つる植物を元にした木の彫刻制作

動きやダイナミックス（活力）についての研究

1993年：国際美術センターで個展（ミュールーズ）、木の枝や幹を元にした彫刻制作、動きのある人物像の制作

1994年：人間の体を通じて、欠如や欠落をテーマにした彫刻制作、彫刻における多色配合の研究

1995年：「会話」シリーズの制作、交わされた言葉の思い出にガラスケースの中に演出された彫刻制作

1996年：「部屋」の制作

1998年：「沈黙の作品」制作

2002年：ポンピドゥー現代美術センターにて3人展（パリ）

2005年：「二重」や「陰」の概念に関する彫刻シリーズ制作

2006年：ポズナン・ビエンナーレ参加（ポーランド）

選評：選考委員長梅原猛

アクセル・カセル氏の芸術もわれわれを驚かせる。人体を連想させるような有機的なフォルムをもった彫刻作品が多いが、その多くは顔がなく、人体であるのかも分からない。しかしその顔のない人体状の作品が顔のある彫像よりもはるかに多様な表情をもっているのである。どこか孤独な表情をもつものもあり、すねたような表情のものもあり、それを見た人々は、人間とは何であるかを改めて問うてみたくなるのである。



LIKETWO LEAVES FROM GINGKO
(2005年制作)



PETAL OF A MAGNOLIA FLOWER
(2005年制作)



BACK TO THE MIRROR
(2005年制作)



CAPUCINE
(2003年/2005年制作)



FIGURE CONQUE
(2006年制作)